

の城を出て拒み戦ふ言ふ事を以て貞任
を裏倒し楯よのをもて頼家の前に至りそ
長六天敵孫の大サ七人出すの大男も板
よ二人して是を昇出しつゝ貞任終る
死を年三十に永承六年より康平六年迄
十二年の留守金銭と云ふ宗任ハ庸となりし
と云古今著叢集に宗任後ハ頼家の家
人となりしが頼家の氏戚にあられて父兄
の仇を謀るの公なりりと見えたりと
あり

陸奥信記曰康平六年二月廿六日左衛門
家為從五位下出羽守云々

奥州後三年記曰奥州軍記の目よ
後三年記といふ者武衡沼の柵

を去り、尚城へ移りし事ありそ又云沼

の柵の下に沼を又曰武衡あやけのけ

をのまの似をして逃んとて出来しと云次任

縣丞是を見て弁教してそ首を切て將軍

の前に持参せりと云そ卯の文義ハ田川郡

田川館の条下に引傳れハ略之案を云

尚城貞任賊後清原武則殺しそ孫武衡